

寺社Now

www.jisya-now.com

神社向け情報誌

vol.4

MAY 2015

巻頭特集

行楽シーズン到来!

今注目の寺社観光

クロースアップ

南坊城光興

道明寺天満宮

特別企画

寺社活性化と地方創生のヒントを探る

活性人

高台寺執事長、京都観光おもてなし大使

VISIT JAPAN 大使

後藤典生

加入メリットが充実



JCHA 会員になるメリット 1 経営セミナー、研修会

経営者セミナーや研修会などの勉強する機会があり、他のホテルの経営者、幹部と情報の意見交換ができます。



JCHA 会員になるメリット 2 JCHA 独自の無料予約サイトが 利用可能になります。

多くの官公庁、JNTO などの公的機関にリンクされている連盟のホームページにホテルのページが作成され、国内外に発信されます。



JCHA 会員になるメリット 3 インバウンド(外客誘致)の推進

当連盟では業界に先駆けてインバウンド活動に取り組んでいます。多くの会員ホテルで外国人観光客の宿泊数が増えています。ホームページも和・英・韓・中簡・中繁の5言語により無料作成を進めております。国内外の商談会にも参加できます。最近外客の予約数が増えています。



JCHA 会員になるメリット 4 経営に役立つ情報の提供

JCHA 独自の全国規模の調査をしております。ホテル経営者こそが実践者であり最高の指導者であることの考えから、会員同士がお互いから学び合うことを運営の基本にしています。



JCHA 会員になるメリット 5 全国の会員ホテル様と 交流ができます

メーリングリスト、ブログなどを使用して多くの会員に疑問を投げかけたり、情報を受信したりでき、全国の会員ホテルと交流ができます。



JCHA 会員になるメリット 6 後継者育成塾「青年塾」

後継者の育成の場とした「青年塾」に参加することにより、同世代の次期経営者及び幹部候補生の育成ができます。



JCHA 会員になるメリット 7 顧問弁護士による講習会、相談

今、貴方のホテルではトラブルなどで困ってはいませんか? ホテル経営に必要な法務基礎知識や宿泊約款取引の勉強、そしてお客様とのトラブル等についても直接相談できるよう、三浦雅生弁護士と顧問契約を結んでおります。会員はEメール及びFAXの相談は無料で対応しています。



JCHA 会員になるメリット 8 各支部の活動に参加できます

全国8支部のいずれかに属することでそれぞれの地域に根ざした特徴ある活動に参加することができます。



JCHA 会員になるメリット 9 様々な企業との提携が可能に

観光庁所管の連盟は、行政とのパイプを強く持っているため関連団体、参助企業との提携、効果的な交流が出来、ステータスも信用も上がり、チェーンホテル以上のパワーが得られ、多くの企業との提携により単独以上の有利な条件で交渉できます。



JCHA 会員になるメリット 10 ホテル見学ができる

ホテル見学のバスツアーがあり、今旬のホテルの見学ができ、ホテル経営の勉強ができます。



JCHA 会員になるメリット 11 NHK放送受信料がさらにおトクになります!

NHKの放送受信料をJCHAを通じて適正な契約件数でお支払いになれば、事業所割引(50%)に加えて、さらにJCHAによる負担(13%)があり、合計63%のご負担減となります。下記データをダウンロードしていただきますと、放送受信料を計算できます。



JCHA 会員になるメリット 12 会員ホテルの広告・宣伝

以下の広告・宣伝ができます。
・ポケット版会員名簿を観光庁はじめ各企業宛てに配布。
・英語版JCHAホームページや英語版会員名簿に掲載。
・日本能率協会等のビジネス手帳に無料掲載

泊まりたい、そんなホテルに出会えます。



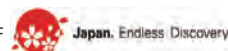
<http://www.jcha.or.jp>

JCHAとは、一般社団法人全日本シティホテル連盟の略称です。

JCHA及び加盟ホテルは、健全、快適で効率的なサービスをそれぞれに相応する料金で提供する全国の優れたホテルで構成する観光庁所管の社団法人です。当連盟は、昭和46年11月15日に設立され、昭和49年10月4日に運輸省(現在:国土交通省)の許可を受け社団法人となり、健全・快適でリーズナブルな料金で提供するホテルの施設・接遇の改善を図り、内外旅行者の利便の推進、わが国観光事業の発展と国際親善に寄与することを目的としております。

一般社団法人 全日本シティホテル連盟

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-12-19 五反田NNビル2F
電話 03-6672-6960 FAX 03-6672-6966



巻頭特集

02 行楽シーズン到来!

今注目の寺社観光

- 1 町と一体になって世界中から人々を呼ぶ・成田山新勝寺（千葉）
- 2 食文化を発信し、広く関心を集める・出羽三山神社（山形）
- 3 寺社観光促進の起爆符 神社仏閣探訪アプリ「いっとく」が登場！

08 クローズアップ

地域振興と神社の活性化をリンク 多彩な企画を生み出す行動派・宮司

南坊城光興 道明寺天満宮（大阪）

16 特別企画

寺社活性化と地方創生のヒントを探る

23 活性人

高台寺執事長、京都観光おもてなし大使・VISIT JAPAN 大使

後藤典生

10

チャレンジ特集

岡山 曹洞宗 毎来寺

12

ハワイ石鎚神社の歩みと今

愛媛 石鎚神社

14

全国寺社イベント

東京・眞敬寺「明るい遺影撮影会」

15

行政・観光ニュース

観光立国日本をめざして

ユニバーサルツーリズムを促進

18

寺社旅研究家 堀内克彦 宿坊研究会レポート02

檀家、氏子激減時代の宿坊活用法

20

世界の寺社

日系人の仏式供養を支える

南米ブラジルの金閣寺

22

職人技

愛知 江場仏像彫刻所

24

野田博明 風まかせ04

湧水にとけた海の物語

26

うちのお宝

茨城・日月山蓮光寺 金剛力士立像

東京・烏森神社 本社大神輿

28

トレンドNow

若者を惹きこむマウンテンバイクのイベント！

ARで寺社の魅力を音声と映像で立体的に案内

29

街の声を聞く

外国人に聞く

「日本人の宗教観について、どう思いますか？」



行楽シーズン到来！

今注目の寺社観光

パワースポットや御朱印集めの流行も影響し、年齢を問わず一般の人々が気軽に神社や寺院を訪れる機会が増えてきた。さらに、ここ数年のスマートフォンの普及により世界中のだけれもが簡単に寺社の情報を手でできることも観光客の増加につながっている。こうした時代の流れに合わせた、参拝者数アップのための事例やアイデアをご紹介します。



平和大塔



大本堂



御守り・おみくじ



奥山広場

易断所がずらりと並ぶ。ほかにも飲食店、土産物店があり、観光客に人気のスポット。



薬師堂



干支の石像

光明堂

大日如来、愛染明王、不動明王が奉安。恋愛成就の祈願に多くの女性が訪れる。

総門

成田山

仁王池

亀のような形をした組岩は「亀岩」とも呼ばれ、参詣客の注目を集める。

成田高 付属中

観光案内所

JR成田駅

京成成田駅

栗山公園

新参道



表参道の町並み

1

多言語案内

町と一体になって 世界中から人々を呼ぶ 成田山新勝寺

真言宗智山派の大本山のひとつ、本尊に不動明王を祀る成田山新勝寺。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する成田市に位置し、年間1000万人以上の参詣者が訪れている。そうした背景もあり、こちらの寺院活性化の取り組みで特徴的なものひとつとして、外国人観光客に向けた多言語案内がある。

最初に始めたのはボランティアガイド。16年前に、英語を話せる解説員が境内や併設する成田山公園を無料で案内するサービスを始めた。その後、パンフレットやホームページを日・英・中・韓の4カ国語で作成するなど、多言語での情報発信を行った。今年からはおみくじの裏面にも英・中・韓の訳をつけるようになった。

「こうした取り組みは、境内の案内所や御守り授与所など、現場職員の意見がきっかけです。今では年間総参詣者の約3分の1を外国人観光客が占めるようになりました」と、企画調整課の僧侶・寺口照慧さん（てらぐちしょうえ）は言う。この外国人観光客に向けた多言語案内に加え、もうひとつ特徴的な取り組みがある。それは地域との連携だ。成田山新勝寺の約800軒に及ぶ参道には、歴史ある旅館や料理店が軒を連ねている。とりわけ、うなぎ料理を出す店が多く「うなぎの町」としても知られている。

「風情ある表参道のお店をはじめ、地域の方々と行政と連携してさまざまな催しを行っていきます。成田の町が勢いづくことが新勝寺へ足を運んでもらうためには欠かせませんから」

梅まつり、紫陽花まつり、成田祇園祭など、四季折々に行われるイベントは年間20回以上。土地柄、空港を利用するために「通り過ぎる町」だった成田を「訪れる町」にするため、市全体を盛り上げていくことが、国内外の旅行客を誘致し、寺院の活性化には必要不可欠というわけだ。

ほかにも境内の「奥山広場」に10もの易断所があるなど、寺院以外にも人々がこの地を訪れるきっかけが多彩に散りばめられている。



日・英・中・韓、4カ国語をそろえるパンフレット。

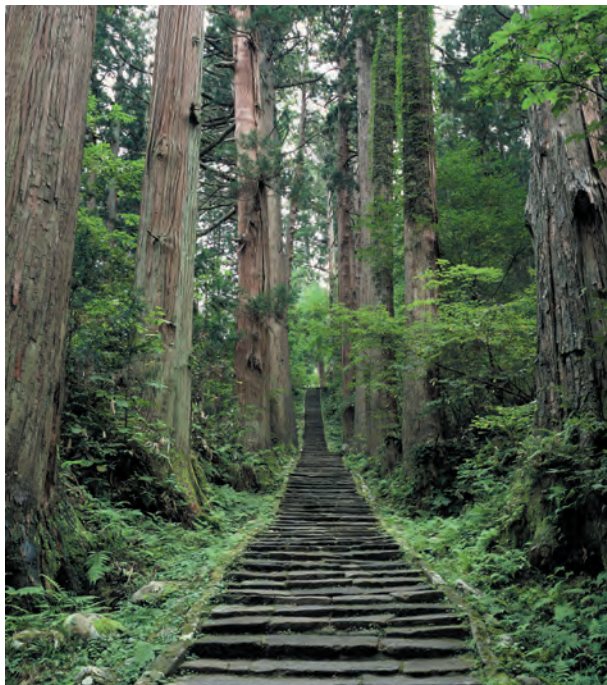
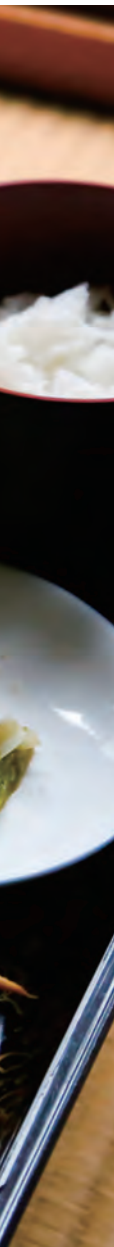


「今後も地域のために取り組みたい」と寺口さん。

「参詣者が増えている一方、御護摩祈禱の御護摩札を受けられる方が年々減少しているのが現状です。3年後には成田山開基1080年祭記念祭大開帳も控えていますし、観光をきっかけに仏教への関心を高めてもらえようという気持ちです」と、寺口さんはさらなる取り組みへの抱負を話してくれた。

成田山新勝寺

〒286-0023
千葉県成田市成田1番地
TEL.0476-22-2111



羽黒山・出羽神社参道の杉並木。



広大な庄内平野と月山（がっさん）を望む大鳥居。

2

精進料理

食文化を発信し、 広く関心を集める 出羽三山神社

山形県の西部に位置し、羽黒派古修験道の聖地として歴史に名高い月山、羽黒山、湯殿山からなる出羽三山。それぞれの山に建つ神社の総称・出羽三山神社は、古来より山岳信仰者の間で名を馳せている。

この地が近年、広く注目を集めることになったのは、2011年にフランスの旅行ガイドブック「ミシュラン・グリーン・ガイド・ジャポン」で羽黒山の杉並木、齋館、三神合祭殿が掲載され、最高評価を獲得したことがきっかけだ。現地・フランスはもとより日本国内でも話題になり、自然と信仰が融合した伝統文化を体感してみたいと、老若男女の多くの人々が訪れるようになった。

て、精進料理のPRを行っている。「出羽三山の精進料理は、山伏の自給自足の生活から発展したもの。山形県の特産食材をふんだんに使っていますので、山形に人を呼ぶための観光資源としても魅力的だと思っています」と権称宜の佐藤敬幸さん。

全部で3カ所ある参籠所で出している料理は、各山で採れた山菜やきのこ、天然水を使用。基本的に精進料理は肉や魚などの動物性食品を使用しないものだが、湯殿山参籠所では、湯殿山に流れる梵字川で採れた川魚の料理がつくなど、場所や時季によつて品目が異なる。

土地と季節の滋味を十分に堪能できる逸品。現在は「二人でも多くの人に味わってもらいたい」という思いから予約制で提供する。そのPRは国内から海外と幅広い。ちょうど「ミシュラン」で注目を集めた2011年には、フランスで開催された「食の祭典」

に出品。フランスに加え、ハンガリーでも料理長による調理デモンストレーションや山伏文化の紹介を行った。さらに今年5月から開催される「ミラノ国際博覧会」にも参加予定。今では年間参拝者、累計60万人の多くを外国人観光客が占めるようになった。

国内では、観光協会や地元の人たちとともに料理教室や「出羽三山精進料理を味わう会」を開催するなど、地域の活性化に尽力。精進料理をきっかけとして日本人と外国人、両方の参拝者呼び、さらには山形への観光客誘致へとつなげているのだ。



精進料理をきっかけに、山形への観光客誘致を目指す佐藤さん。





3カ所ある参籠所で味わえる精進料理のひとつ、齋館の精進料理はかつて松尾芭蕉が食したとも伝えられている。

出羽三山神社

〒997-0292
山形県鶴岡市羽黒町手向字手向7
TEL.0235-62-2355

※開山期間は神社によって異なる。出羽神社は1年中、湯殿山神社は5月1日～11月上旬、月山神社は7月1日～9月15日を予定。



「ミシュラン」でも紹介された三神合祭殿。一般神社建築とは異なり、一棟の内に拝殿と御本殿とが造られた独特の様式だ。



立ち並ぶ社と杉林のコントラストが美しい。出羽三山一帯には、多数の末社が散在していることでも知られている。



神社Now だけに特別公開!
リリース前の情報をキャッチ!

3

アプリ 「いっとく」が登場! 神社仏閣探訪アプリ 神社観光促進の起爆符

今や、スマートフォン国内契約者数は6000万件を超え、これまでの携帯電話(フィーチャーフォン)の契約数を抜いている。外出先からでもインターネットにアクセスできる利便性の高さから「情報はスマホから」が当たり前になってきた。

情報を受ける側は、いつでもどこでも情報を得ることができ、環境にある一方、情報を発信する側の環境はどうだろう。神社観光に限ってみれば、まだまだ整備が行き届いていないというのが実情だ。

個々の神社の住所や歴史といった情報は、検索をすれば知ることができる。だが、「この神社に行きたい」と思わなければ、知るきっかけがない。そうした状況を改善すべく誕生したのが、「いっとく」だ。このアプリは、「神社に足を運んでもらう」「神社をもっと知ってもらう」ことを目的に開発された。

このアプリの最大の特徴は、操

作や仕組みが非常にシンプルであること。神社情報提供に徹底的にこだわったことである。

パワースポット巡りのように神社に馴染みの薄い若い女性でも、目的があれば複数の神社を訪ねている。このアプリは、独自の探訪コースが設定されており、コースごとに目的に合った神社が複数配置されるので、神社巡りの動機付けとなる。

「神社に足を運びたくなるコース」で参拝誘致したあとは、現地で、その神社のことを楽しく、より深く知ってもらえるよう、神社にこだわった情報(設立、由緒、見どころ、ご利益など)が提供される。

尚、コース設定は、神社や周辺地域の魅力を引き出すテーマを採用している。

今後は、増加する外国人観光客への案内ツールとして多言語にも順次対応するので、神社活性化や情報発信の手段として有効活用されていくに違いない。

参拝案内

地域毎に多彩なテーマで寺社探訪コースを設定。
位置機能を利用した目的地までのルート案内を行います。
コース組をすることで参拝動機を創り出し、一部地域に集中する
観光客を地方へ誘致。寺社を中心とした地域の観光を活性化します。



寺社情報提供

寺社の情報や祭事などの一般ユーザーが気になる
知りたい情報を提供します。
参拝時に役立ててもらえる以外に、地域住民や檀家・
氏子の方々に改めて寺社への理解を深めてもらうための
情報発信ツールとしても活用できます。



寺社情報ページ掲載例



ユーザー目線に立ったシンプルで簡易な操作性で「おすすめの寺社が分からない」「寺社への行き方が分からない」といった悩みを解決するものです。

多言語
対応

SNS
シェア

GPS
対応

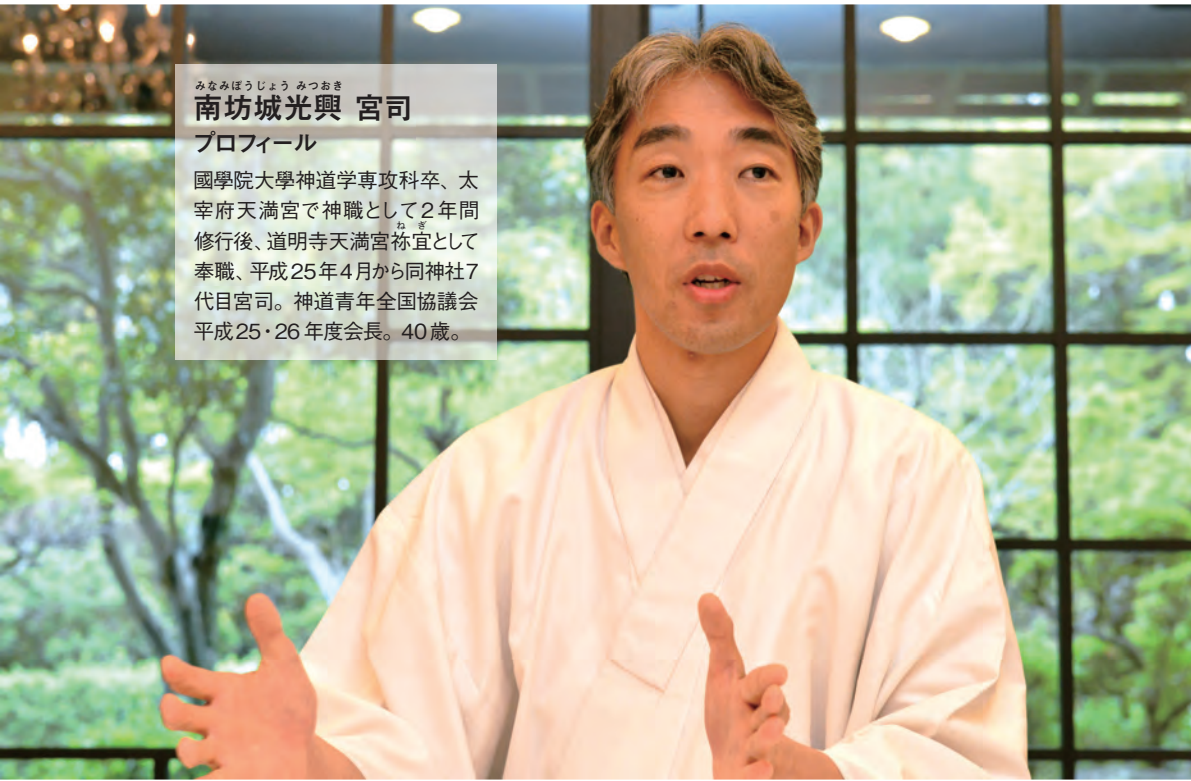
特別募集

寺社アプリ「いっとく」にご参加・
掲載希望の寺社を募集！
寺社にひとりでも多くの方に足を
運んでいただくためのツールとし
てご活用ください。

【お申込み・お問合せ先】

一般社団法人 全国寺社観光協会 本部事務局 Tel.06-6360-9838 e-Mail : info@jisya-kk.jp

地域振興と神社の活性化をリンク 多彩な企画を生み出す行動派・宮司



みなみぼうちょう みつおき
南坊城光興 宮司

プロフィール

國學院大學神道学専攻科卒、太宰府天満宮で神職として2年間修行後、道明寺天満宮祓宜として奉職、平成25年4月から同神社7代目宮司。神道青年全国協議会平成25・26年度会長。40歳。

南坊城光興

道明寺天満宮・宮司

大阪・藤井寺市の道明寺天満宮に神社を活性化する行動派の宮司がいると聞き、訪ねてみた。

同天満宮7代目の南坊城光興宮司は、地元有名な梅や桜の季節だけでなく、年中、神社に人が訪れるようにと、多種多様な取り組みを実践。果敢に地域と神社の活性化に挑戦していること。熱い思いの宮司に、神社活性化への思いを聞いてみた。

道明寺天満宮と言えば、祭神は菅原道真公、天穂日命、道真公のおば、覚寿尼公になる。神社の歴史は古く、道真公の先祖で野見宿禰が、土師の姓と所領を賜り氏神として天穂日命を祭った「土師神社」が始まりという。

梅、桜の名所としても知られ、境内の梅園には、紅梅、白梅など約80種800本の梅が植えられ、2月上旬から3月上旬までの「梅まつり（写真1）」期間中、野点、盆梅展などにぎわう。

参道や境内には桜も約200本が春を彩る。

地域振興と神社活性化への情報発信

宮司は、「昔は、地域で何かあると皆さん神社に集まっていた。神社は地域のコミュニティ。多くの人に気軽に来たいだけける所になくはならないません。守らなければならぬ祭事の一方で、広い境内などを中心に活用するからです」と、神社と人とのかわり方について、人々を集めることと情報発信の重要性を語った。

神社の情報発信として、まずはホームページを立ち上げた。14年前のことである。最近ではフェイスブック。また、地域の情報紙にも、梅や桜の開花情報、神社の祭事なども掲載している。

地域の人とコラボ、
天満宮に人を呼ぶ！

同天満宮には、伝統ある行事として、木彫りのうそ皂を周囲

の人と交換し災よけを願う「初天神うそかえ祭(写真2)」（1月）、お稚児さんの行列が歩く「菜種御供大祭」（3月）、学問の神様を祭る天満宮らしい「筆まつり」（4月）など、祭事は毎月のようにあるが、さらに地域の人たちと連携し、さまざまなイベントを実践している。

地元の夫婦が6年前から境内ではじめた「手づくりの市(写真3)」。3月、5月、9月、12月の年4回開催し、若い人たちが神社に足を運ぶきっかけを作った。毎回、陶器、手芸品、パン、新鮮野菜など約40店が並び、大盛況だ。また、寺子屋の神社版「宮子屋」も昨年実施した。親子を対象にワークショップと講話のセット。「梅の見方」、「はにわづくり」など身近なテーマで喜ばれた。

今年5月には、地域の「道明寺まちづくり協議会」に協力し、「大坂の陣四百年祭、道明寺合戦まつり」を考えた。会場は石川河川敷と合戦の舞台となった道明寺天満宮。この街をあげての催しに、宮司はアドバイザーとして、武者行列、太鼓演奏など多くの行事を企画段階から助言・協力している。

このほか、骨董市（毎月第2日曜と25日）、境内の天寿殿を

会場に敬神婦人会の茶・華道、書、舞踊、花の絵など7クラブが活動するなど多彩だ。

神前ブライダルもプロデュース

最近、神前結婚式(写真4)が見直されつつある。都市部の結婚式会場もいいが、二人の記念の場所がいつまでも思い出の場として、あり続けてほしいとの願いからだ。特に、神社の荘厳さの中で挙式したいというのが人気の要因とか。

南坊城宮司は、当然、そのこともわかっている。今年3月まで若手神職でつくる「神道青年全国協議会」の会長を歴任。同協議会では、女性の神職も増えたことから、後継者育成の一助にと、神職同士の「婚活交流会」を企画。任期中に2回実施し2組のカップルが誕生している。

これらの経験も生かし、宮司自ら、神社でのブライダル総合プロデュースもやっている。頼まれば、司会までもやっけてのける多才ぶり。「地域の人の誇りになり、○○なら天満宮と言われる、○○を増やしたいですね。誇りに堪えられるものを」と言うほど。

外国人観光客にとって神社は日本文化の塊り

宮司曰く、「外国人観光客には、本物を見せることが大切。ここ南河内地域に重要文化財は、修羅など130件もあります。日本人でもこれほど多く文化財がこの地域にあることを知らない。地元の藤井寺市は日本で5番目に地域の狭い市ですが、国宝が8点もあり、道明寺天満宮にある菅原道真公が実際に使った硯など6点が国宝に指定されています。道真公が実際に使った品が残っているのはここだけです」とのこと。

外国人を呼ぶことについて、「神聖な神社で、神に対して敬意を払い、長い歴史の中で守ってきた日本文化を味わっていただけたらと思います」とも語る。

さらに活性化に向けて

観光面では、これからの時代「政教分離」の趣旨は理解しつつ、官民一体の協力も必要という。宮司は、「例えば、近くの幹線道路には、残念ながら神社や寺院への案内板がありません。また、社殿は檜皮葺建築物ですが、文化財登録がされておら

ず、改修には莫大な費用がかかります。文化を維持、観光を発展させるためには行政などの柔軟な連携も必要でしょうね」と活性化に向けた熱い思いで締めくくった。



1



2



3



4



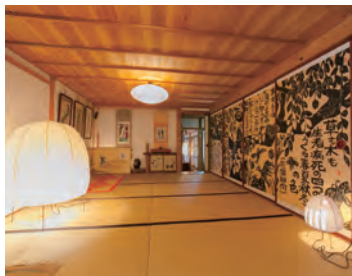
道明寺天満宮

〒583-0012
大阪府藤井寺市道明寺1-16-40
TEL.072-953-2525

お寺の壁や天井全体を埋め尽くす、300点以上の版画の数々。これらの作品が、たった1人によって描かれたというから驚きだ。岡山県真庭市にある「毎来寺」は、版画寺として知る人ぞ知る観光スポットである。

手がけたのは、住職である岩垣正道さん。昭和51年に無住だった毎来寺に入山して以来、40年にわたって版画を彫り続けている。入山当時は前任職が離れて3年の歳月が経っていたこともあり、屋根の瓦は剥がれ天井は傷み、1人での修復は困難を極めた。とはいえ、お寺とさんの縁もない岩垣住職が周囲の信頼を得るのは難しく、しばらくは孤独な時期が続いたという。そんな窮状を救ったのが、版画だった。

「昔から絵が好きで、宗教よりも絵の勉強ばかりしていた」という学生時代は主に油絵を嗜んでいたが、お寺に飾るのであればシチュ



チャレンジ特集 寺社の復興の原動力を探る

世界から参拝客が集まる美術館のようなお寺

無住のお寺からジャパニーズアートの発信基地となった毎来寺

エーシヨンに合うものと、独学で版画を始めたという。

「禅語や和歌、俳句の文句から気に入ったものを選んで、感じたままに絵にしています」という作品は鳥や草木といった身近な動植物をモチーフにしたものが多く、見る者に愛らしさと親近感を抱かせる。「明るいイメージの言葉から作ることが多いですね」と言った通り、作品の中の動物たちは、静かに佇みながらも背筋を伸ばし、生命力溢れる印象だ。

そんな前向きで穏やかな絵は噂となり、次第に人が集まり始めた。「ある檀家さんに、天井にも版画を飾ってはどうかと言われたんです。私にはそんな発想もなかったのですが、面白そうだと思いついたところに相談したところ、無償で天井に梁を設け、作品を展示できるようにしてくれましたよ」

岩垣住職の作品と人柄に、徐々に周囲も協力的に。瓦も天井も張

り替えられ、無住だった頃の面影はすっかりなくなりました。

その頃から作品の発表の場も広がりを見せ始める。鳥取県浜村温泉への作品奉納や真庭市の御前酒蔵元辻本店の酒ラベルの制作、計3度に及ぶニューヨークでの個展開催と、岩垣住職の作品が国内外を問わず多くの人の目に触れるようになっていった。そして平成20年、岡山県から観光事業功労者表彰を受けメディアにも取り上げられると、全国各地から観光客が訪れるように。遠方からの参拝客に喜んでもらうと、作品を印刷したポストカードや手ぬぐいを販売するギャラリースペースを設ければ、それらの作品が広告となりさらに人を呼ぶようになった。

「誰も参らん寺」なんて揶揄されていた寺に、今では国内だけでなく、海外の方まで参拝してくれるようになりました。そのほとんどの人はお寺に参るといふより、

版画の鑑賞が目的ですが、私の絵には釈迦の言葉や和歌など、先人の教えが描かれています。そんな宗教との触れ合いがあってもいいと思うんです」

40年以上に渡り没頭し続けた版画作り。たった1人の挑戦は、いつしか多くの人を巻き込み、海をわたりジャポニズムの発信基地となったのだ。

最後に参拝者の減少が進む今のお寺に必要なものはなにか、尋ねてみた。

「小難しい説法を聞きに、足を運ぶ人などそうはいないのです。うちの様に『珍しいお寺があるらしいから、観光がてら行ってみよう』そんな風に気軽に立ち寄れる場所であれば、自然と人は集まって来ると思います」

74歳の岩垣住職は、活発な口調でそう語る。そのバイタリティー溢れる精神こそ、毎来寺復興の源なのではないだろうか。

曹洞宗 毎来寺
〒719-3224
岡山県真庭市目木1001
TEL.0867-42-0932
※参拝の際は電話にて要事前連絡



門や外観にも岩垣住職手彫りの看板や表札など、愛らしいデザインの作品が飾られる。お寺独特の荘厳さや厳肅な雰囲気というより、親しみやすい町家といった佇まいも女性に人気の理由だ。また、建築専門誌に「木造ルネッサンス風小学校」と紹介され、テレビCMや映画のロケ地としても使われた国の重要文化財「旧遷喬尋常小学校校舎」が車で約6分圏内にあり、建築やアート鑑賞目的の観光者が多く訪れている。



色とりどりの作品に圧倒される本堂の天井は、檀家の協力を得て版画が展示できるように工夫された。ここには日本における曹洞宗の開祖である道元禅師が詠んだ約60の和歌にインスパイヤーされて作られた、カラフルな色遣いが特徴の版画作品のみが集約し飾られている。

誕生のきっかけは、移民の真摯な思い

ハワイ石鎚神社の歩みと今



石鎚神社口之宮本社の本殿。平成27年秋まで、平成の大改修が行われている。

瀬戸内海に面した愛媛県西条市と久万高原町にたたずむ西日本最高峰の石鎚山は、加賀白山や駿河富士などとともに日本七霊山に数えられる霊峰。標高1982メートルの険しい山は、今から1300年前、修験道の開祖・役小角が開いたという。その後、寂仙菩薩が石鎚蔵王大権現として称えて、常住社（現在の中宮である成就社）を創立。弘法大師空海もこの山で修行したといわれており、桓武天皇や文徳天皇、豊臣一族からも厚い信仰を得た。石鎚神社の御祭神は石鎚毘古命一神で、石鎚山麓の口之宮本社、中宮成就社、土小屋遥拝殿、奥之宮頂上社に鎮座されている。また、国内に100カ所以上、海外ではハワイとブラジル

に分社がある。そこで、遥か異国の地で信仰の灯をともし続ける海外分社の歴史をひもといた。

* 日本の神社の海外への普及は、海外へ移民した人たちと共に広がることが多い。ハワイの石鎚神社もその一つであり、明治の自由移民時代に広島からハワイへ渡った三宅シナが、いったん日本へ戻り、愛媛県西条市にある石鎚神社本社と成就社で40日余りの修行を行い、教派神道の御嶽教の教師の資格を取得して戻ったことが始まり。帰布の際に石鎚神社の分霊を携えて、大正6年11月24日に現在地に遷座した。これを機に、ハワイの神社の中で初めて県政府が非営利法人と



ハワイオアフ島ホノルル市にあるハワイ石鎚神社。



ハワイ石鎚神社で参拝客に人気の巫女さんたち。



中央が平成11年より宮司となった志村尚哉。関係者らの結束が神社運営の礎だ。

して認可し、ローカル社会での認知が進むこととなった。三宅シナは、浄土宗を信仰する家庭に生まれ、靈感が強く、憑依状態になることがしばしばあったそうである。大正2年2月17日に「我はタカヤマノタカガミ（高山の高山）なり。シナの身体を借りて皆を救う」というお告げを口にした。愛媛県西条市から移民した人が、「高山の高山とは石鎚神社の神様ではないか」と教えたところ、愛媛県と同じ瀬戸内海に面した広島

石鎚本社からの支援を背景に ローカル社会に定着

石鎚神社

〒793-8555
愛媛県西条市西田甲七九七
TEL.0897-55-4044

県生まれのシナは、その話をすんなりと受け入れたという経緯があったという。

海外での神社運営には、様々な艱難辛苦が待ち受けていた。とりわけ苦勞を強いられたのは、第二次世界大戦の前後。二代目宮司の木村富次は、戦時中、他の神社関係者とともにアメリカ本土に抑留された。帰布後は社殿が敵国財産管理局に没収されていたため、自宅にて祭祀を行っていた。ようやく社殿の祭祀が再開されたのは昭和29年。昭和35年には社殿1階ホールにおいて「葵幼稚園」を開設した（現在は閉鎖）。

昭和38年には創立50周年を記念して、広島から招いた宮大工の林峰松親子と信徒たちの手により、流造りの社殿が完成する。石鎚神社本社との交流も細やかに行われており、昭和58年には愛媛県より石鎚神社本社の近藤茂生宮司らがハワイに渡り、創立70周年記念大祭が盛大に行われた。以降、しばらく宮司不在の時期もあり、高齢の教団員たちが見よう見まねで奉仕を行ったりもした。

そこで平成11年には、ハワイ在住の志村尚哉が石鎚神社本社で特別講習を受けて宮司と

なり、現在も奉仕を担っている。平成15年には本社より十亀興美宮司管長（当時）や役員、氏子ら16名がハワイを訪ねて、創立90周年記念大祭を行うことができた。石鎚本社ではこのような節目にハワイへ渡るなど、随時あらゆる指導を細やかに行うことで、運営を支えてきた。

海外にあるもう一つの分社・ブラジル石鎚神社（スザノ市）は、昭和25年頃に高知県出身の移民・津野長太らが、石鎚山に姿の似たカッチンガ山で雨乞いをしたところ、これが叶い、旱魃の危機を脱したことを由来に発足。本社は昭和56年に石鎚山を訪れた津野に分霊を行い、御神体はカッチンガ山に祀られた。

毎年、7月第1日曜日に執行行われる大祭では御神体とともに数百名の人々がカッチンガ山に登って祈願し、餅まきや直会などをを行う。本社で行われる「お山開き大祭」さながらの賑わいをみせる。

「石鎚本教は『行動の宗教』。自然との融和により神様に近づき、霊峰に登頂することにより、神様の導きを得よう」とします。ハワイとブラジル、ともに日本から遠く離れた異国の地で、信仰を貫くのは簡単なことではあ

りません。本社は常にその存在を気にかけて、節目の時に現地に赴いています」と話すのは、御神像御奉斎記念式典などの際にハワイやブラジルへ足を運んだ石鎚神社の曾我部英司禰宜だ。

近年、海外の分社は、信徒の高齢化や4世・5世の世代となった日系社会の変化への対応が求められている。そんな中、ハワイでは石鎚本社の協力により2年前にオリジナルのお守りを企画。ハイビスカスや虹をデザインした華やかなお守りは、現地の方のみならず、ハワイを訪れた日本人観光客からも人気となっている。石鎚信仰の海外での布教・教化は、本社の細やかなサポートと現地の信徒があつてこそなし得るものなのだと実感した。



観光客に人気のお守りグッズ。

イ	全
ベ	国
ン	寺
ト	社

真宗大谷派 眞敬寺

〒111-0042
東京都台東区寿
1-11-7
Tel.03-3841-1986

東京・眞敬寺「明るい遺影撮影会」

自分を見つめ直す きっかけの場をつくる

第17世住職の釋朋宣しやくほうせんさんは、気軽に集まってもらえる場所を目指し、お寺のイベント作りに取り組んでいる。その一環として2008年から始まったのが生前に遺影写真を撮る「明るい遺影撮影会」だ。

「老人ホームで行われている遺影撮影会に密着したテレビ番組を見たことがきっかけ。写真家・大西暢夫のぶおさんが、じっくりと時間をかけて対話しながら撮影する姿に感銘を受けました。そして大西さんに直接お願いをして、遺影撮影会を開催できることに」

「明るい遺影撮影会」を開催する住職の思いとは？

「遺影撮影を通して、今の自分

を見つめ直す時間を持つこと。そして、死をひとつのテーマとして、これからどう生きて、何をしたいのかを、明るい視点で考える機縁にしてもらえたらうれしいです」

「一回の撮影料金は2万円（税・写真代込み）、最低遂行人数3名が集まり次第開催される予定。

「お寺のイベントはHPとお便りでお知らせしています。また、遺影撮影会をお寺で開催するには、写真を撮影してくれるカメラマンと撮影スペースが必要。遺影の準備は先の話という方が多く、まだ参加者が少ないのが現状です。この活動が少しずつでも浸透していくように、続けていきたいと思っています」



遺影撮影会の写真は葬儀で飾るだけが目的ではない。

観光立国日本をめざして ユニバーサルツーリズムを促進

障害者から外国人旅行者まで、誰もが楽しめる観光地づくりを推進

ユニバーサルツーリズムとは

観光庁は、ユニバーサルツーリズムに対応した観光地づくりを進めるための一つとして、都内で業界関係者など約150人を招き、シンポジウム「バリアフリー観光地づくりで集客増」を開催した。

ユニバーサルツーリズムとは、外国人旅行者を含め、高齢者や障害者、乳幼児連れなど、誰もが旅行を楽しめるようにつくられた旅行のこと。同シンポジウムでは、集客増の観点から、いつかそれが当たり前となるように、地域が一体となって受け入れ体制などを進めることの重要性が説明された。

誰もが楽しめる旅行

ユニバーサルツーリズムの普及促進をはかる観光庁は、これまで取り組んできた高齢者・障害者向け旅行の効果の検証では、健康や体調への意識向上や、移動・外出に対する自信など変化が表れている、としている。また、乳幼児連れの旅行に関する調査・検討を行い、乳幼児連れ旅行のモデル構築をめざす。

さらに、国土交通省では、駅などの旅客施設や車両のバリアフリー化を急務とし、鉄道駅にはエレベーターやホームドア、障害者対応型トイレ等の設置を推進。空港アクセスバスにリフト付きバス車両を導入するための検討を進めるとともに、ユニバーサルデザインタクシーのさらなる普及をめざして支援の充実に取り組み、観光客の利便性と安全性の向上をはかる。

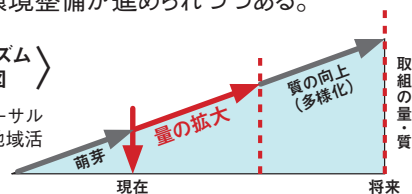
バリアフリー化を加速

こうした取り組みの狙いは、高齢者や障害者、外国人旅行者に安心して旅行を楽しんでもらうことにある。特に、外国人旅行者が急増する2020年「東京オリンピック・パラリンピック」前後は、世界の人々をひきつける絶好のチャンス。観光立国を実現するためにも、日本全国のバリアフリー化の加速とユニバーサルツーリズムの推進は、重要な取り組みなのである。もちろん、この事業が成功すれば、東京五輪後も地域は発展していくための資産を生みだし、世界に通用する魅力ある観光地域づくりへとつなげることができるだろう。

現在、三重県・伊勢志摩や沖縄のように、地域の一元的な相談窓口としてバリアフリーツアーセンター（相談センター）などの環境整備が進められつつある。

〈ユニバーサルツーリズム〉 〈促進に向けた概念図〉

※平成25年3月ユニバーサルツーリズム促進に向けた地域活動実態調査より



=参考=

観光庁ホームページ

平成27年度観光庁関係予算概要 2015年1月
<http://www.mlit.go.jp/common/001067327.pdf>

観光立国推進閣僚会議 2014年6月17日

観光立国の実現に向けたアクション・プログラム2014
<http://www.mlit.go.jp/common/001046636.pdf>

観光庁観光産業課

ユニバーサルツーリズム促進に向けた地域活動実態調査報告書 2013年3月

トラベルビジョン 2015年3月15日記事

<http://www.travelvision.jp/news-jpn/detail.php?id=66260>

駅のバリアフリー化を実現した例

ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、鉄道駅においてエレベーター等の設置による段差の解消、ホームドア等視覚障害者の転落を防止するための設備の整備、障害者対応型トイレの設置等を、国・関係地方公共団体・鉄道事業者等の関係者一体の取り組みにより推進し、観光客の利便性と安全性の向上を図る。



JR東日本 平泉駅(エレベーター設置、跨線(こせん)橋新設)



奈良県吉野町役場の椿本さん、モデルのNazka Sawaさん、村上さん。現在、吉野杉・檜のブランディングに取り組んでおり、吉野町で取材を行った。
(左：竹林院、右：金峯山寺)

特別企画

キーは“女子のおもてなし”に在り!

寺社活性化と地方創生のヒントを探る

女性は男性に比べ流行に敏感と言われ、女性がブームの火付け役となることが比較的多い。

仏像ガールや歴女などのような寺社にまつわる流行も女性が中心だ。

どうやらブームのヒントは女性にあるらしい。

女性の琴線に訴えかけ、地方や寺社を盛り上げるためのヒントを探る。

量から質へ、
自分らしさを重視のトレンド

ここ数年、ライフスタイルを大切にすることがトレンドとして広がっている。モノやサービスをむやみに消費するのではなく、生活の質を重視するというものだ。

村上萌さんは「ライフスタイルプロデューサー」という肩書を持ち、女性向け商品の企画やイベントのプロデュースなどを行うほか、自治体との取り組みにも力を入れている。その影響力は大きく、20〜30代の女性の暮らしにも変化を与えている。そんなライフスタイルトレンドの第一人者である村上さんに話を聞いた。

「物と情報が溢れ、メディアやブランドの絶対的な力が弱まる」と、多種多様な職業が成り立ち、個の意見が目立つようになりました。そこで求められるのは、皆と同じ物やカリスマと同じ物ではなく、自分らしい暮らし方です。人々が自分に合った選択をして、身の回りの物を自分専用にかスタマイズしていくことです。必ずしも隣の人と同じ答えではなく、自分らしい」と実感した時こそ満足に繋

がり、それこそがその人にとっての答えになるのです。

20〜30代の自己投資欲の高い女性は、ブランド物を買うのではなく、いつ、どこで、誰と、何をするのかということ、自分らしく選択できた時に豊かさを感じる傾向にあります。便利になるほど、人と同じ物を手に入れるのは簡単。逆に、手作りや旬を感じることを方こそ価値が高まってきました」

ライフスタイルブームと寺社はどう関わるのか、尋ねてみると、「寺社の魅力を挙げるとすれば、場所によって違う、その土地に根付いた文化があること、そして季節ごとに見える顔が違うということは大きなポイントになります。これはまさに日本の魅力が凝縮されている姿であり、文明がどれだけ発達しても真似することができない、便利とは真逆の、自然」と歴史に依るものです。

市場が成熟した今こそ、人々は「次の週末は、あの寺社がある、あの場所へ行ってみよう」と思ってもらえる時期です。私自身も、季節に合わせて、自分自身のライフスタイルに、寺社や地方をかスタマイズしてもらえようという提案をしています」



可睡齋の体験は担当の僧侶が丁寧な説明を行う。体験者の理解が深まり、満足度が向上する。

SNSとリアルとの連動が キーポイント

インターネットとスマートフォン
の普及により、誰もが自由に
発信できるようになった。

とりわけ、デジタル情報の
伝達に優れる画像投稿アプリ
「インスタグラム」などを使用し、
その世界観や見せ方など、個人
が持つ独特なセンスで何万人と
いう人を惹きつける女の子たち
がいる。彼女たちは、SNSと
リアルをうまく連動させ、自分
のライフスタイルの延長線上に
ある手が届きそうで届かない微
妙な距離感の理想の日常を可視
化することに長けている。

先日、静岡県袋井市にある可
睡齋で行われた取材に、ある2人
の女の子たちが参加した。彼女
たちはインスタグラムで1万7千
人程のフォロワーを持ち、おしゃ
れ好き、旅行好きなど一般人の女
の子だ。そんな彼女たちに実際
に宿坊に泊まってもらい、彼女
たちなりの言葉と今風の見せ方
で寺社の魅力を発信してもらお
うという取り組みである。

可睡齋は、僧侶と一緒に禅修
行の体験ができ、出される精進
料理もおいしく、見どころが多
いと評判の宿坊だ。案内してく

れる僧侶の方の説明も丁寧で、
女の子たちが初めて行くには最
適な場所とも言える。

参加した彼女たちは、スマー
トフォンの小さな画面上で映え
るような写真を選び、独特なセ
ンスで写真に加工を施す。精進
料理の朝ごはんを「精進ブレッ
クファースト」と表現するなど
して、アプリに体験記を投稿。
その結果、体験記のコメント欄
には「お寺って泊まれるんです
ね!」「そんなツアーがあるんで
すか?」といった様々な反応が
寄せられる。個性豊かな発信力
を持つ彼女たちは、そんな気付
きをユーザーに与える力(インフ
ルエンス力)を持っているのだ。



彼女たちが曰く、「自分と向き合
える場所として、お寺や神社を
打ち出すのは、ライフスタイル
を大切にしている人にはとても響き
ます。ポイントは写真を撮って
あげたり、撮る機会を与えてあ
げること。SNSに投稿したい
からと体験にわざわざ行く人も
多いんです」

彼女たちのように、体験者自
らが見たことや体験したことを
SNSで投稿し、それに共感し
た人が同じように足を運ぶとい
う風に、自然と輪が広がってい
くという。

もちろん、この輪の広がり
を全国的なブームにするためには、
情報発信のタイミングや話題性
などが大きく関係する。その過
程において、女性の手の届く範
囲の非日常として身近な接点を
創り出し、「小さな共感」を大
勢の女子から集めていくことで、
少しずつ大きなブームへとつな
がっていくのではないだろうか。

秋葉総本山 可睡齋 (17P)
〒437-0061
静岡県袋井市久能 2915-1
TEL.0538-42-2121(代)

檀家、氏子激減時代の宿坊活用法

寺社旅研究家・宿坊研究会代表／堀内克彦



深緑と爽やかな風に包まれる大陽寺の客室。



注目を浴びている鳥取の宿坊、光澤寺の一室。



大血川の奥深い渓谷にある人気宿坊大陽寺。



地産の食材を使った精進料理は宿泊客に好評。

地方の過疎化脱却、 観光立国化を宿坊で実現

厚生労働省によると、平成26年3月末時点で日本のホテル営業施設数は9809軒、旅館営業施設数は4万3363軒、簡易宿所数は2万5560軒。この中で宿坊は多く見ても500軒。しかも高野山(52軒)や善光寺(39軒)など特定の地域に固まり、一軒もない県は多い。私が見る限り、秋田、岩手、宮城、福井、群馬、山口、宮崎、熊本、鹿児島、沖縄には宿坊がない。期間限定や修行施設としての宿をどこまで数えるかにもよるが、残りの半数近い県も1〜2軒。日本には宿坊空白地帯が多数ある。この空白地帯を上手く使えば、様々な課題や社会問題に一石を投じられると考えている。

例えば、日本の観光立国化について。日本は海外から訪れた旅行者の満足度が非常に高いが、東京、京都、大阪、北海道や沖縄と、主要スポットに足を運んだ旅行者がリピーターとなり次に訪ねる場所及び情報が不足している。

ここに寺社に泊まる旅が加われば、大きなインパクトになる。来日した外国人観光客が「最大

限に日本を感じ取れる場所に泊まりたい」という欲求を寺社は満たしている。

寺社には文化様式のある建築や日本庭園、精進料理など、大きな魅力が詰まっている。実際、宿坊研究会の英語版サイトには多くの国からアクセスがあり、「全国寺社観光協会の「宿坊創生プロジェクト」にも、熱い注目が集まっている。

また、地方の過疎化、都心の過密化緩和にも宿坊は力を発揮する。数が少ないことは紹介したが、これは一軒生まれるだけでも話題になりやすいということだ。観光資源に乏しい町にも宿坊があれば、人は訪れる。秩父の山奥にある大陽寺や、鳥取にある光澤寺はその好例で、開設から数年しか経っていないが、メディアで多数取り上げられ、全国から泊まりにきている。

こうした寺社が各地に増え、都心と地域を結ぶハブになれば、地域の情報発信基地となり、特産品の再発見や雇用創生などの役割も期待できる。

寺社の必要性と 淘汰される寺社の現実

日本はアメリカやフランス、

イギリスなどの欧米先進国と比較して、自殺者数はトップを占めている。今後、日本は心の問題にますます踏み込まざるを得ない状況に直面していく。自死・

自殺者数が高水準にある中で、追い込まれた人が日常のレールを離れ、経済優先の社会と異なる仏教や神道などの価値観にふれる場は貴重だ。宗教は子育てや食育など教育との相性も良く、禅の精神は世界中で良い影響を与えるとグローバル企業の研修にも取り入れられている。

宗教は元来生き方を伝えるものだが、重いテーマになるほど気軽に寺社に足を運ぶことは難しい。しかし宿坊であれば、旅の宿として開かれた場であることが明白で、外から見た垣根は低くなる。

そして、もうひとつ。これから多数の寺社が姿を消すかもしれないという問題がある。日本にはお寺や神社がそれぞれ約8万ずつあるが、人口の減少によって支える人間が不足してきているのだ。

檀家や氏子数の激減、葬儀や祭儀の簡略化、人口移動についていけない特性など、寺社を取り巻く環境は良好とは言えない。新たな柱、活用法を生み出す

ことが急務だと考えられる。

宿坊は重厚な歴史や文化に光を当てる

寺社には千年を超える歴史と祈りが積み重なっている。これは日本人の心だ。そうした貴重な財産は大多数を占める無名の寺院の中にこそ隠されている。

観光立国化には二つの道がある。一つは世界の最先端に血肉を注ぐ道。シンガポールやドバイなどは世界の富豪を集め、最先端の技術を結集した建築ラッシュで都市を作る。しかしもう一つの道として、重厚な歴史や文化に光を当てる方策がある。日本は、現存している世界の国々の中で最も古くから続く国であり、他を寄せ付けない最強のアドバンテージを持っている。しかも、世界の最先端技術も多数あるため、最古と最新の両面を併せ持つ。

私がアドバイザーとして就任している全国寺社観光協会の「宿坊創生プロジェクト」は、法律や税制、建築、観光などのノウハウを持つ多分野の専門家と手を組み、日本の伝統や寺社の魅力を伝える宿坊を増やそうと取り組んでいる。今後、観光

や地域経済などの観点から日本の寺社の未来像にひとつのモデルを生み出していくだろう。

宿坊はこれまで寺社に培われてきた心を、新たに活用しながら後世につなげる手段となる。ただそのためには、まずは私たちがそこにある良さを見つけ、楽しみ、そして新たな時代に通ずる形に磨きあげていくことが必要だ。

宿坊は観光資源としての「宿」である前に、お寺であり、神社でもある。その意味するところを汲み取りながら、世界と深く結びついた時、宿坊は日本全体を変えざるほどの強さで輝いていく。「宿坊創生プロジェクト」はそこに向けて、日々取り組んでいる。



ほりうちかつひこ 堀内克彦 プロフィール

寺社旅研究家・宿坊研究会代表。
「人生を変える寺社巡り」がテーマの寺社旅研究家。各地で寺社活性化・地域活性化の講演を実施し、寺院コンサルタントとしても活動中。著書に『宿坊に泊まる』（小学館文庫）、『こころ美しく京のお寺で修行体験』（淡交社）、『恋に効く！ えんむすびお守りと名所』（山と溪谷社）など。

◆宿坊スタートアップミーティングレポート

4月13日、京都・東本願寺・同朋会館で、「宿坊スタートアップミーティング」を開催した。この催しは宿坊の開設を見据え、旅館業の許可取得など、様々なことを学ぶ勉強会だ。

最初に主催者である私（堀内）から「宿坊が未来を作る3つの理由」と題した、宿坊開設の意義とメリットについての説明をさせて頂いた。続いて全国寺社観光協会から「宿坊創生プロジェクト」の紹介、そして、参加者からの質疑応答と意見交換が行われた。

関西を中心に新潟から九州までの様々な宗派の寺院関係者が集まり、宗務組織の過疎地域対策担当者や宿坊に興味を持つ旅館業、建築会社、メディアなど個別寺院以外の立場からも多数ご参加いただいた。さらに実際に宿坊を作られた鳥取県・光澤寺の宗元住職夫妻にアドバイザーとしてご出席いただき、信仰、観光、法律、経済など、多方面にわたって宿坊を作るための課題整理や事例報告が行われた。



日系人の仏式供養を支える

南米ブラジルの 金閣寺



大西洋岸の林を背景にたたずむ金閣寺。元々池はなかったが、金閣寺建設にあたって造られた。

サンパウロ市中心から南西約40
キロ。イタペセリカ・ダ・セーラの
ヴァーレ・ドス・テンプロス国立観
光公園内に、金閣寺はある。空気
の清涼な公園内の湖畔に、静々と

してたたずむ。

京都の金閣寺を模しているが、鉄
筋コンクリート製で、外壁は金色の
塗装。昔はニシキゴイが水面を彩っ
たが、夜の間に盗まれ、今はクロゴ

イが残る。8月は池の周囲を雪割桜
が華やぎを添える。

金閣寺の建設は、1908年に始
まった日本人移民の受け入れが終わ
りかけるころ。カトリック教が主流

で土葬が一般的なブラジルで、日系
社会で火葬を導入する動きが起こっ
た。76年に南米初の火葬場ヴィラ・
アルピーナがサンパウロ市内に誕生。
茶毘に付された遺灰を納める納灰



円光寺にまつられている木彫りの仏像は、素人のブラジル人に作らせたものだという。アマチュアの手によるものとは思えないできばえ。「こんな立派なのは、ブラジルのどの寺にもない」と、大畑住職も自慢の祭壇である。



遺灰を納める納灰堂としての金閣寺に対し、法要などの仏事を行うために建設された。週末のみ開館し、ルイス僧侶と大畑住職、2人の僧侶がボランティアで先祖供養や座禅指導を行っている。



円光寺に勤めながら、金閣寺を見守るルイス僧侶と大畑住職。ルイス僧侶は学生時代に本を通して仏教の教えに魅了され、15歳で座禅を始めた。日本での修行経験もある。



堂として、金閣寺は造られた。

金閣寺構想を考えたのは、米国人アロンゾ・バイン・シャトウキ (Alonzo Bain Shattuck)。彼は第二次大戦後、日本に15年間住んだ退役軍人だった。彼は火葬場で生じた遺灰を納めるお堂の必要性に気づき、サンパウロ市リベルダーデ区の曹洞宗南米別院仏心寺に協力を要請。別荘用に分譲されていた土地を購入し、仏心寺がもつ金閣寺の設計図を基に、日本人移民の宮大工に建設を任せた。

建設費には、ロッカー式の木製納灰墓を売った収益が充てられた。通常の墓の半額で購入でき、経済的に余裕

夫婦のような関係の金閣寺と円光寺

がない日系移民も先祖供養の場をもつことができた。4階建ての寺内部の壁面は、約5000家族の遺灰墓が敷き詰められ、現在も1墓2000〜4000レアル(約8000〜1万6000円)で購入することができる。

数年前まではアロンゾ氏が運営していたが、齢90にして金閣寺を売却し米国に帰国。今は霊園や葬儀サービスを行うメモリアル社が運営を行う。

さて、金閣寺を語るには、それに隣接の円光寺にも触れなければならぬ。同寺は金閣寺から独立しているが、同じ敷地内で補完的役割を担っている。納灰堂としての金閣寺は、

中に法事を行うスペースも設備もなく、元仏心寺の僧侶で、金閣寺内での納灰法要を執り行っていた大畑天昇氏の希望で円光寺が建設された。

同住職が師事していた福島市の曹洞宗円通寺の吉岡棟一住職が快く500万円を助成し、日系社会からも200人以上の有志から浄財が寄せられた。91年に着工、10年の歳月をかけて完工した。

世代交代に伴い、仏式供養の習慣を失った日系人らが位牌や仏壇を持ち寄る駆け込み寺にもなっているほか、禅に関心のある非日系人らが座禅道場としても利用している。

週末に大畑住職とその後継者、

47歳のルイス・カルロス・ルジロ僧侶が参拝者を迎え、法要を執り行う。寺の管理は、僧侶や地域住民が作るブラジル金閣寺文化協会が、約250の檀家が納める年間140レアル(約5500円)の管理料や布施を元にボランティアで掃除や修繕を行っている。

互いに支えあう夫婦のような関係の金閣寺と円光寺。交通の便が悪く、同地を訪れるのは月に200人ほどだが、市の豊穠な自然を利用してジープやバイクツアー、トレッキング、乗馬などレジャー活動も実施しているので、エコツアーを兼ねた巡礼も一興だ。

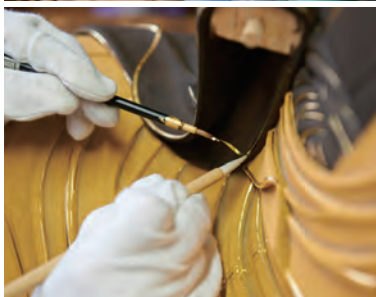
職人技

伝統と文化を継承する職人名鑑

継承と挑戦で

切り開く、

仏師の未来



「木の塊を彫っていくうちに肌や衣服の質感が見えてきて、キャラクターを持ち始めます」と琳観師。父・琳鬘師による不動明王は、左手のロープに至るまで木製。彫刻の技術はもちろん、水干絵の具と岩絵の具が持つ質感の違いや、截金の繊細な美しさでリアル感を生み出している。現在、工房では北海道・天瑞山大安寺に安置する巨像を制作中。空間構成から携わり、彫刻には琳観師が開発した新技法も使用される予定だ。

1973年(昭和48年)に設立された「江場仏像彫刻所」の仏師・江場琳観師。幼い頃から父・琳鬘師の背中を見て育ち、高校卒業後、京都の大仏師松久宗琳佛所に内弟子として入門。10年間の修業を経て独立した。現在は門弟と仏像制作・修復に動じむかたわら、彫刻教室を開催するなど後継者の指導・育成に努めている。

- 日本総合美術展で県議会賞・大賞・優秀賞など数多くの賞を受賞。
- 2005愛・地球博「1000年スパンのものづくり～仏像と森～」に出展。
- 草仏展(名古屋市博物館ギャラリー)、宗教美術展(京都産業会館)などに出品。
- ベルギー(ブリュッセル・ワートルロー)江場琳鬘展出品。
- 名都美術館(愛知県)所蔵名品展に「迦陵頻伽」「蘭陵王」を提供。

江場仏像彫刻所

〒480-1124
愛知県長久手市戸田谷1509
TEL.0561-62-3373

仏教の教えを今日へと伝える仏像だが、近年は海外製品を使用する寺社も少なくないという。「江場仏像彫刻所」の仏師、江場琳観師に話を伺った。

「宗教離れといわれていますが、仏像の展示会はとても人気があります。多くの方が宗教に魅力を感じるひとつの要因として、代々拝みたいと思える仏像かどうか大切かもしれません」

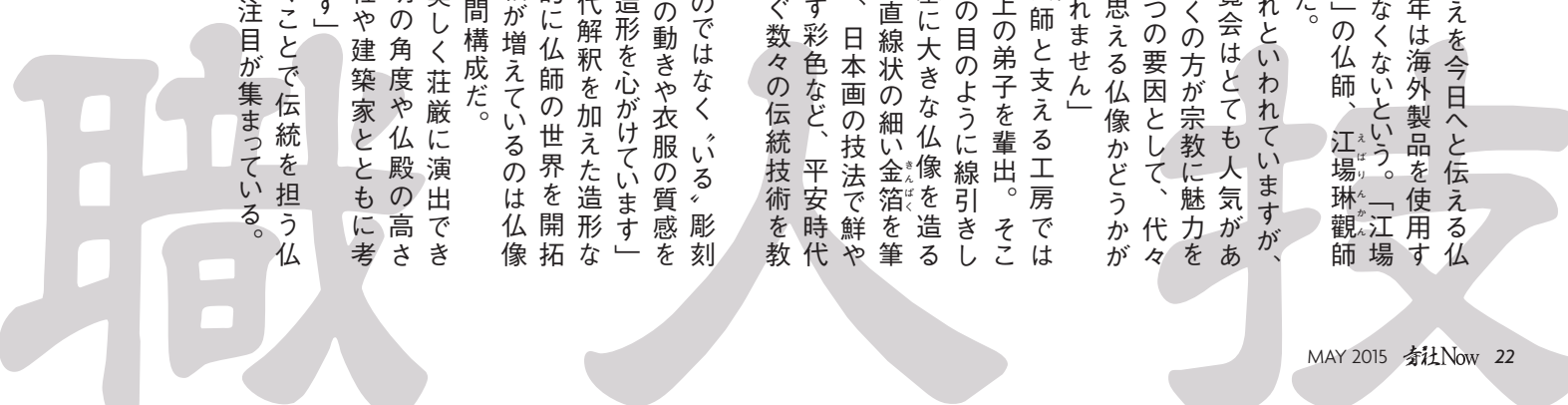
父・琳鬘師と支える工房では100名以上の弟子を輩出。ここでは、碁盤の目のように線引きした雛型を基に大きな仏像を造る賽割法や、直線状の細い金箔を筆で貼る截金、日本画の技法で鮮やかな色を施す彩色など、平安時代から受け継ぐ数々の伝統技術を教えている。

「『ある』のではなく、『いる』彫刻が理想。風の動きや衣服の質感を感じさせる造形を心がけています」

一方、現代解釈を加えた造形など、積極的に仏師の世界を開拓する。依頼が増えているのは仏像を含めた空間構成だ。

「いかに美しく荘厳に演出できるか。照明の角度や仏殿の高さなど、寺社や建築家とともに考えていきます」

道を開くことで伝統を担う仏師の活躍に注目が集まっている。



寺社を活性化させる
キーパーソンに聞く

高台寺執事長、
京都観光おもてなし大使・VISIT JAPAN 大使

後藤典生



豊臣秀吉の正室・北政所が晩年を過ごした圓徳院住職兼高台寺の執事長。約20年前から、外国人誘致の活動をはじめ、現在は京都観光おもてなし大使とVISIT JAPAN 大使を兼任。

京都観光産業のキーマンが語る 「おもてなしの心」

「外国人観光客増加に伴い、京都の文化が見直され、多くの工芸品が海外の方の目に触れ、持ち帰られています。つまり今こそ、寺院や景観を目的に訪れた方々に私たちの優れたサービスや製品を再認識してもらう絶好の機会なのです」

高台寺の執事長で、同寺塔頭の圓徳院後藤典生住職が、古都・京都の観光客誘致に乗り出したのは20年前。国内観光客が北海道や沖縄に流れ、その事態を危惧した京都市に依頼されたのがきっかけだった。

「講演会やテレビで活躍する市田ひろみさんや嵯峨野観光鉄道にご協力いただき、イベントを企画するなど、数々の活動を行ってきました」

京都観光おもてなし大使であり、VISIT JAPAN 大使も務める後藤住職。香港やマカオなど海外に赴いての誘致活動を重ねるほか、圓徳院・高台寺のライトアップ等の京都の魅力づくりや、おもてなし活動を行ってきた。

近年ではリニアの京都誘致にも取り組む京都観光産業のキーマン。年間1300万人超とも言われる外国人旅行者の増加についてこう語った。

「世界遺産などソフト作りに躍起になるばかりではなく、上質なサービスを提供できることが重要です」

そう考えたキッカケは、以前ハワイを訪れた際の実体験だという。

「現地で体調を崩し病院に行った際、たくさんの人が順番待ちをしていたにも関わらず、早く治ってハワイを楽しんでください、と順番を譲ってくれました」

観光客を最優先するという考えが現地では常識として備わっているのだという。

「無形文化遺産の和食を無理にすすめて日本を満喫してもらえと思うのは、こちらのエゴでしかありません。日本のラーメンの味に感動している外国人もいます。大切なのは、旅行者の需要を見極め、京都人すべてが高い意識を共有することです」

日本人が本来もっている「おもてなしの心」を発揮する、それだけで日本は世界に誇れる観光地になれるのだと、後藤住職は強い口調で語った。



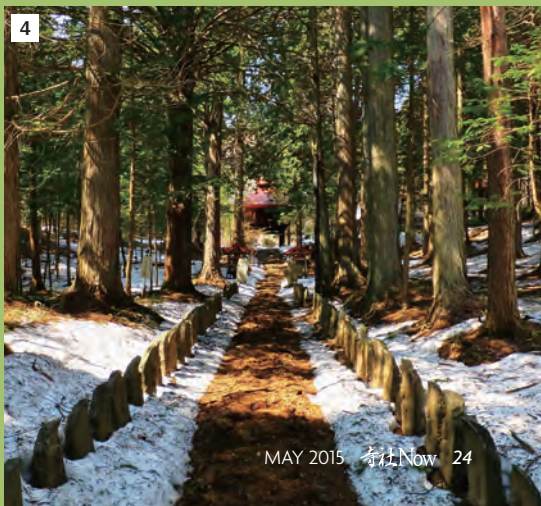
圓徳院

〒605-0825
京都市東山区高台寺下河原町 530
TEL.075-525-0101
<http://www.kodaiji.com/entoku-in/>



風まかせ 04

野田博明



湧水にとけた海の物語

安曇野は豊饒の海のなかに浮遊しているのだ…といま秘かに思っている。

安曇野の地下300メートルほどには中央地溝帯、昔、中学校で習ったあのフォッサマグナの岩盤がある。そこに北アルプスからの雪解け水が貯まり、湧水となって地表に噴き出している。その豊かな水が梓川や高瀬川、犀川の清流を成し、灌漑用の堰を縦横にめぐらせた漫々たる景観をつくりだしている…というのが世上のおかたの見方である。

ところが、この地底の奥深く広大な海が実は隠れているというの、わたしの大真面目な確信な

のである。だから冒頭の文章は修辭的な描写ではなく、事実をそのまま語つたに過ぎない。

安曇野という地名が北九州・志賀島からやって来た海の民・安曇族に由来することは古代史に多少なりとも興味をもつ方であれば周知のことと思つた。

ただ、なぜ海民が、しかも応神天皇の時代には海人を統べる宰領に任じられたほどの安曇族が海洋を遠く離れた内陸の地にわざわざ分け入り、定住したのか。海神と漁業の守護神の末裔である安曇族が山間の地でどのようにその開拓、発展に尽くし、地名に名を留めるまでに至ったのか、

いかにも不思議である。

さらに、この地には安曇族の祖神、海神（綿津見命）の子である穂高見命を祀る穂高神社がある。そこに「御船祭り」という奇妙な神事が伝わっている。高さ6メートル、長さ12メートルの大きな2艘の船形の山車が安曇野の田園地帯を練り歩き、神前において御船を互いに激しく突き合はす。玄界灘の荒海に生きる海民の俠気を髣髴とさせる勇壮な祭りである。県歌に詠じる「聳ゆる山はいや高く、海こそなけれ」の神社の例大祭とは思えぬ奇祭である。

そのな消化不良の謎の池にポツンと小石を投げ込んでくれたのが、数年前、安曇野に遊んだ際に立ち寄った栗尾山満願寺のお大黒さん（住職夫人の呼称）であった。森閑とした本堂で、「大昔、このお寺のすぐ下には満々たる水を湛えた大湖があったとの話が伝わっています。古いお寺がこの標高の辺りに数珠つなぎに建っていたのはそのためなのです」と語られたのはまことに浪漫に満ち、啓示的ですらあつた。

安曇の海は存在したのである。なるほど、中信地方の寺院には標高1000メートル前後の山中から平地へ移転したとの謂れを持つ古刹が多い。その数珠玉のなかに聖武天皇の勅願により創建された満願寺や同じ坂上田村麻呂の伝承を残す清水寺がいまなお除しい山内にひっそりと堂宇を構えている。山中高所に御堂を建立する動きは、平安時代あたりの顕密系寺院の一種の流行りであつたという。だからと言って、それ以前に創建の満願寺や清水寺までも「フアッション」とひと括りにするのは、伝説や言い伝えに對していささか無礼であり、乱暴の誹りを免れない。

海はたしかにあつたに違いないのである。そう念じた先に、穂高神社の境内に日光泉小太郎なる銅像が立っていた。信濃では広く人口に



5



6



7

- 1 長峰山から安曇平を一望
- 2 穂高神社拝殿
- 3 安曇野の水車のある風景（大王わさび農場）
- 4 清水寺 百体観音と山門
- 5 日光泉小太郎像
- 6 穂高神社奥宮・明神池で行われる御船神事
- 7 満願寺本堂

野田博明（のだ・ひろあき）

昭和26年4月生まれの63歳。昭和50年3月、東京大学卒業と同時に日本興業銀行入行。広報部長・管理部長などを経て、みずほホールディングス監査役などを歴任、平成23年に退任。趣味は神社仏閣巡りを兼ねた旅とグルメ。日本書紀など古代史が大好き。



松本藩主の命により編まれた地誌「信府統記」は、小太郎に「景行天皇十二年頃まで安筑平野は四方の山々の谷間より落ちたぎる水をたたえて、満々たる大湖であった」との記述を残す。大昔、安曇野から松本一帯は大きな湖であったとの伝説が江戸の初頭には公に流布していたのである。お大黒さんの話が

脳裡に甦った瞬間であった。安曇野は南方に松本平、諏訪盆地を連ね、北方は善光寺平を望む一本の帯のなかにある。それを地学的に括れば、日本列島の中央部にU字溝を掘る中央地溝帯の西端をなぞる線上にあると要約される。そして、太古、海の底であった安曇野や松本がその後の地殻変動のなかで海を退行させていった事実が地質学の究めるところである。

小太郎伝説にある巨大湖は、気の遠くなる星霜を重ねた末にその海の名残をとどめた神さまの水たまりのようなものであったのだろう。海洋を莫逆の朋とし大陸との外交や交易に長けた安曇族が、上代、海の道筋であった中央地溝帯に染み込んだ潮路の遠い記憶に

導かれるように日本海から内陸へ通じる河口へと舵を切った。安曇族が本拠地の志賀島を離れた経緯は判然としない。履中天皇の即位に際し、住吉仲皇子の反逆への加担や筑紫磐井の乱に合力した廉で本貫の地を棄てざるを得なかつたのであろうか。その志賀島に海神を鎮める志賀海神社がいまも存在し、代々阿曇家が宮司を務めている（阿曇宮司の急逝により目下、代務者を置く）。

いづれにせよ安曇族が志賀島から伯耆の安曇郷や近江高島の安曇川、三河の渥美郷など移動、定着の足跡を残し、全国へと散らばっていったことは確かである。そのひと群れが糸魚川から翡翠を産する姫川へ、別の群れが砂鉄をふんだんに埋める千曲川へと遡上し、そのどん詰まりのところまで水源地である安曇の湖に辿り着き、上質の船材である杉の巨木に覆われた山々と邂逅した。

この無尽の資源に恵まれた両川筋を掌握するためその源流に拠点を構えた。そこで、先進技術による治水工事を施し、耕地を創り出し、さらに砂鉄と大量の木材を原料に鉄器を製造し、開拓を一挙に押し進めた。

そうした営みのなかで、北アルプス最高の霊峰に海民の矜持を寄せ、その祖神・穂高見命の名を冠し、善光寺平から仰ぐ高原には産土の地、志賀島の名を供した。さらに神が降臨される神降地（上高地）に奥宮を祀り、里を穂高神社本宮となし、海原を遠く隔てた信濃の国に神と湧水の桃

源郷を築きあげたのである。巨大湖より遙か昔、この地が海であった記憶は安曇族のDNAに封印され、いつしか物語という口伝により後世に語り継がれ、その一筋の綱糸が満願寺のお大黒さんの話へと紡がれてきた。そこに想いを馳せたととき、伝説というおとぎ話を童に独り占めさせるのは些かもつたないという気がしたのである。

安曇の湖を決壊させた小太郎と犀龍はその膨大な水量をただ越後の海に落としたわけではない。秘かに水底に釜穴を穿ち、地底奥深くに海と湖の記憶を流し込んだに違いないのである。そして、そこにいつの日か海の物語を語らんと海神・白龍が静かに夢を結んでいるのだとわたしは固く信じている。



鹿嶋市指定文化財に登録された逸品

金剛力士立像

本尊に阿弥陀如来をまつる、真言宗豊山派の日月山蓮光寺。開基した年月や住職などに関する書物等は残されていないが、鎌倉時代に建てられた寺院と言われている。

こちらの本堂の中に鎮座する「金剛力士立像」を特別に拝観させてもらった。地元住民から「奈良毛の仁王様」「子育仁王」と、厚く信仰されている、蓮光寺のシンボルとも言える存在で、奈良県・東大寺の仁王

像も手掛けた名仏師・運慶が鎌倉時代に制作した、と伝えられている、歴史ある木造の像である。

「金剛力士」またの名「仁王」の由来は、阿形像と吽形像の2体1対神通力を持って外敵を払う、釈迦如来の守護神である。そのため門番として山門の左右に置かれることが多いが、蓮光寺では本堂の須弥壇上の左右に安置され、人々に崇められている。1711年に修復されたが、そ

れ以降は人の手を加えずに、ほぼ原形を保っていることから、その精巧かつ丁寧なつくりがうかがえる。こゝろ「阿吽の呼吸」に由来する阿形像と吽形像は、どちらも像高約2メートルの寄せ木造りで、東日本大震災の影響で一部欠けてしまったものの、頭の上で髪を束ね、天衣・裾をまとい、上半身は裸形で両眼を見開いた迫力ある忿怒の形相で岩座の上に力強く立ち続けている。

同寺所蔵の阿弥陀如来立像とともに1972年に鹿嶋市指定文化財に指定され、2004年に茨城県立歴史館が開催した特別展「茨城の仏教遺産」に出展された。拝観ができるのは、毎年1月末の日曜午前11時より開催されている「仁王様の例大祭」。普段は閉められている戸が開けられ、本堂にて護摩供・法要が行われるタイミングのみ。その機会をお見逃しなく。

阿形像(左)と吽形像(右)。



日月山 蓮光寺

〒311-2224
茨城県鹿嶋市奈良毛 212
TEL.0291-39-2479



だし鉄こと山本正太郎の最高傑作 本社大神輿

平安時代の天慶3(940)年に百足退治の逸話で有名な藤原秀郷が造営した烏森神社。

神社の起源は秀郷が、ある稲荷神社に戦勝を祈願したところ、白狐が白羽の矢を与え、その矢を持ってすみやかに乱を鎮めることができた。そのお礼に稲荷神社の創建を決意した際、夢に現れた白狐に「神鳥の群がるところが霊地」と告げられる。神鳥とはカラスのことで、神の使い

と言われている。そしてお告げ通りカラスが群がっていた、桜田村の森(現・新橋)に社殿を創建したと伝えられている。

この神社のお宝は、神田代町の有名な神輿師、だし鉄と呼ばれていた山本正太郎が昭和5(1930)年に制作した「本社大神輿」。屋根4面すべて最頂部の棟から地上に向かって山のような形状をした切妻屋根の八つ棟型。台輪4尺2寸(約127センチ)

と非常に大きく重いことから、通称「千貫神輿」と呼ばれているそう。

さらに注目して見てほしいのは、カラスと所縁がある神社ならではの、蔵手に黒いカラスのモチーフをあしらった珍しいデザインだ。屋根のてっぺんに鳳凰、前後左右の4面に設置した鳥居など、金と漆で仕上げた豪華絢爛な装飾も目を引く。

この神輿は毎年5月5日に開催されている「例大祭」で2年に1度お

披露目される。

神輿同好会「皐月会」が主体に、約100人の担ぎ手が一堂に集まり、お囃子をのせた山車とともに新橋駅前を宮出として氏子地域を練り歩く姿は圧巻。

今もなお江戸の文化を継承し、街全体が活気に満ちあふれたにぎやかな祭りとなっている。次回発輿は2016年「例大祭」、ぜひともその目で見てもらいたい。



からずもり 烏森神社

〒105-0004
東京都港区新橋2-15-5
TEL.03-3591-7865

トレンドNow

今話題のトレンドの波は寺社界にもジワジワ押し寄せています！

トレンド
発信



石段を駆けるマウンテンバイク (石清水八幡宮)。



勢揃いしたマウンテンバイクの選手たち (石鎚神社)。

若者を惹きこむ マウンテンバイクのイベント！

寺社の境内で、マウンテンバイク (MTB) ダウンヒルの大会 Red Bull Holy Ride が毎年行われている。Red Bull Holy Ride とは、通常、山の斜面にて行う MTB ダウンヒルレースを、聖なる (Holy) 場所で行うというもの。寺社に若者を惹きこむイベントとしてはうってつけである。

愛媛県西条市の石鎚神社、大阪府箕面市の応頂山勝尾寺に続いて、昨年11月は、京都府八幡市の石清水八幡宮で開催された。2010年から4回目となる昨年の大会では、募集開始から20分で定員が埋まるほどの人気ぶり。境内には歴史的な見所も多数ある。コースは、その神社の全長約800メートル、高低差約100メートル、最大斜度約22度、石段396段の表参道を使用。全速力で、石段を駆け下りる様子を間近で見るとは大迫力のスポーツ・エンターテインメント！大型ビジョンも設置され、さまざまなポイント駆け抜ける選手のバトルが見られる工夫もあった。

当日、観戦できない人には、インターネットでの配信もあり、画面を通じて、背景となる神社とマウンテンバイクの迫りに魅了されるイベントである。

開催の問い合わせは、レッドブル・ジャパン株式会社
<http://www.redbull.com/jp/ja/bike/events>

ARで寺社の魅力を 音声と映像で立体的に案内

今、新しい時代のガイド役として、AR (拡張現実) という仕組みを利用した寺社の案内が評判を呼んでいる。

京都のシンボル、五重塔が建つ世界遺産・東寺では、新時代のガイドブックとして登場し話題である。ガイドブックには寺宝などの解説、写真とともにARマーカーを掲載。スマートフォンなどで専用アプリケーションをダウンロードしARマーカーを読み込むと、寺宝や境内の建物の音声解説と立体的な映像を見ることができる。

熱海市西山町の来宮神社でも、若い参拝客が増えている現状を受け、スマートフォンやタブレット端末を使って、神社や境内の魅力を音声と映像で案内できるようにした。手作りのマップを10万枚印刷し、マップに記載された鳥居のロゴマークを専用のアプリケーションで撮影すると、簡単に情報が取り込まれる。巫女長の福井彩耶さん (25) が、例大祭「こがし祭り」の歴史や、パワースポットとして若者から人気を集めるご神木「大楠」の伝説などを直ぐに語り出し、ナレーションに合わせた映像が4分30秒間流れる。

ARは、新しい案内方法の一つとして、これから多くの寺社で活用されていくはずである。



ARを使ったガイドブックをPRするホームページ (東寺)。



マップの鳥居マークから映像が楽しめるサービスをPRする巫女 (来宮神社)。

次号は7月発行の予定です。

監修

一般社団法人 全日本社寺観光連盟

発行人

一般社団法人 全国社寺観光協会

編集統括

岡本 恵

編集主幹

前田隆義

デザイン

有留博一

編集

井上朋紀

粉木こなつ

石田康二

藤原武志

企画構成

水美光一

制作進行

セン・シセン

寺社NOW 編集部

株式会社関西マガジン放送局

発行所

一般社団法人 全国社寺観光協会

(事務局)

〒530-0044

大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号

AXIS 南森町ビル 1103号

Tel:06-6360-9838 Fax:06-6360-9848

寺社NOW 5月号

第1巻第4号 平成27年5月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権で保護されています。本紙の許諾なしに複製(コピー)したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。

包容力ある 日本人の宗教観

ドイツでは多くの人が信仰する宗教はキリスト教です。私より年配の人や同じ世代の人たちは常に宗教と関わる日常を送っています。たとえば、お祈りをすることや、定期的に教会に通うなど、宗教を通じて周りの人々との交流が生まれ、イエスの教えを受けて私たちの価値観、道徳心なども培われています。

一神教の私にとっては、「初詣は神社にお参りし、結婚式は教会で挙式をし、死んだらお寺」という日本人の宗教観はとてもミステリーに思いますね。しかしその国にとって一番受け入れられる形でしたらどんな宗教観でも問題ではないと思います。約半年間、日本に滞在した経験のある私から見ると、日本の宗教観は包容力があり、だからこそ、多彩な文化を生み出したのかもしれない。



大学教授

ユーゲン・ヴォールさん(54)

若者たちは宗教行事が イベントに

日本に来て2年半になりました。日本人はあまり宗教心が強くないと感じますね。たとえば、お正月の時に神社へ初詣に行くことは、信仰ではなく、一つのイベントとして参加するイメージが強いです。しかし、クリスチャンの私は日本人の宗教観はなんとなく分かるような気がします。なぜなら、実は今のスペインの若者も昔ほど宗教に影響されていないからです。たとえば、教会での結婚式は、宗教的な意義があるけど、綺麗なドレスを着たいとか、親から結婚式を挙げてほしいと言われてする人が多いですね。

もし、将来私が日本人と結婚することになったら、神前でも、仏前でも結婚式に抵抗はないと思います。日本の「神」として尊敬しますから。



留学生

ギノバルト・ウリオルさん(23)

寺社に一言、
さまざまな年代と国籍の人に
聞いてみました。



外国人に聞く

「日本人の宗教観について、どう思いますか？」

日本人の宗教観に 住むうちに共感

中国にいた時、私は日本の宗教についてはあまり詳しくありませんでした。日本に来てから、日本人は年越しを目的に大晦日の深夜にわざわざ神社やお寺へ行って、来年の幸運をお祈りしながら新年を迎える習慣があることが分かりました。初詣に友達と一緒に行く人もいれば、家族連れの人もいます。別にどの神様や仏様を信じているからいくわけではない事実はその後を知りました。

留学を経て、私は今大阪 YMCA 国際専門学校日本語学科に勤めています。願い事などがあるとき、私もお寺や神社へ祈りに行くようになりました。もともと無宗教の私ですから、もしかして日本に住んでいるうちに、日本人と同じような宗教観を持つようになったのかもしれない。



専門学校職員

バク センギョク
朴善玉さん(29)

多様な宗教が共存共栄の 素晴らしい平和・日本

私は日本在住のオーストラリア人です。日本人の宗教観というと、その時の需要によってバランスよく、臨機応変にうまく宗教を日常生活に取り入れて暮らしていると感じています。

たとえばお祭りは一つの例として考えてみると、開催する神社やお寺は関係なく、参加したい人なら、誰でも参加することができます。参加したくなければ、強制的に参加させられることもなく、その人の意思を尊重してとても自由です。

日本にはたくさんの宗教が存在していますが、宗教同士の間に争いがなく共存共栄できるのは本当に素晴らしいことだと思います。特に宗教が紛争の問題になっている現代では、日本の宗教観は一つのモデルとして他の国々にもっと知ってもらわなければならないと思います。



大阪YMCAコーディネーター

ドミニク・パンラジョさん(39)



挑戦の 数だけ、 保険が ある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company



東京海上日動